

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 189 号	2017年4月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—3月30日（木）二俣瀬ふれあいセンターにて、会計監査と役員事務局会議を行いました。
会議は主に総会資料の確認で、修正点を確認し、総会用にコピーしました。

—4月2日（日）29年度の総会が二俣瀬ふれあいセンターで開催され、下記決定しました。
20名の参加でした。関根事務局長の司会で議事を進行しました。

- 1) 28年度の活動報告：つくる会と観察隊の活動報告があり、両方とも承認されました。
- 2) 28年度会計報告：会計報告があり、承認されました。
- 3) 監査報告：林監事より、適正に会計が行われていたことが報告されました。
- 4) 組織の変更と規約改定：副会長および監事の人数を、“2名ないし1名”に変更、会議は、会長が招集、議長は会長が指名するに変更、参集場所は、原則としてビオトープ東屋とします。5) 29年度活動計画：稲作体験は、今年度も実施し、昨年度実施した3回の臨時作業日を正規の活動日とし、会報は、来年3月に200号を迎えるため、記念冊子の発行について論議しました。エコアップについては、水中作業に必要なウェーダ購入についての説明がありました。
- 5) 維持管理は、散策路の補修（湿地帯部分）、小川（草原ゾーン）の補修、水車への対応が主となります。湿地帯の散策路はU字溝に置き換え、小川はシガラ等を用い護岸の補強をします。現在破損している水車については、回転が出来るようにするための方法を議論し、今年度から水路上流の維持管理範囲が増えます。
- 6) 28年度傷害保険と7) その他も話し合われました。

—4月15日（土）親子自然観察隊は、二俣瀬ふれあいセンターにて決隊式を行いました。観察隊スタッフやつくる会の役員の紹介とビオトープでの安全についてなどの説明をしました。その後、ビオトープへ移動し野草の説明をして、それぞれ野草を採取してもらい安全を確認してテン普拉にしました。その他、維持活動として、散策道の補修に発生した廃材の処理もしました。午後は、希望者を竹林に連れて行き、筍を掘りました。今日の参加者は、観察隊の子供20名と親17名につくる会会員19名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません

◎行 事

—5月7日（日）（草刈・溝上げ）エコアップ・修復作業

—5月27日（土）親子自然観察隊（野鳥観察）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声-「活動力」 (原田 満洲夫 記)

ビオトープ創設以来 17 年・竣工以来 15 年の節目の年になりました。その間いろいろの問題が起きそして解決してきました。しかし創設当初のホームページもほとんどの記載事項に変化がないが、逆に、その当時のビオトープの姿を知ることが出来ます。

今思えば若かりし頃の懐かしい思い出となってきた。最近の総会時、とみに後継者の問題は世間一般の悩みと全くおなじであり、何とかビオトープを維持継続するにはまず予算が十分あり、外部の力を有償で借りこの問題をフォローすることもできる。がそれでは当初の思いからかけ離れて来る。

若い中学生や高校生のボランティア活動の名をかり行う事もいくらか行っているし企業の研修の名のもとに維持活動の応援も受けているが、それらは特定少数の会員のみ多忙となることが多くなってくる。事有る毎に現状の会員で「一人ひとりの能力アップ・無駄のない動きを」と提言している。

然しながら早！実質 15 年以上各自が年齢を重ね身体だけでなく脳も加齢化でそのしわ寄せが「里山ビオトープ二俣瀬」の変化となっているのである。

他会員のみでなく自分も一昨年より家庭の事情もあり事務局長を他の方に委譲し事務局員として他 3 名の事務局の方々と活動が何とか維持できていると思う。

雑言 “弱音はく ありし里山 姿見え”
 “桜散る 回らない水車と 古老かな”

5. 親子自然観察隊（結隊式及び食べられる野草） (管 哲郎 記)

結隊式：二俣瀬公民館にて受付を開始し、会員登録、資料の配布などを行ったのち、「結隊式」を行いました。今年は 19 家族、隊員 25 名の登録がありましたが、4 家族が欠席されたので、隊員 20 名、親 17 名の参加となりました。結隊式は管隊長の開会宣言、原田会長の挨拶より始まり、原谷会員による場内の危険生物のお話や注意事項の説明があり、その他年間行事と本日のイベントの説明を終えて、ビオトープ現地に移動しました。

食べられる野草の採集

【山野草】東屋に集合し、北村リーダーによる山野草の説明を受けました。小さな鉢に「春の七草」が植えられ、そのほかに食べられる野草 10 種ほどを摘み取って花瓶に差して展示してありました。それぞれの親子がフィールド内に採集に出かけ、東屋に持ち帰った山野草は順番に北村リーダーにより名前を判定していただきました。

その間に、女性会員はシニア隊員の親御さんたちの協力をいただき、前もって準備された山野草を天ぷらにしてもらいました。おかげで試食会を早く始めることができました。

【タケノコ堀】タケノコ堀は午後に行い、今年は原田会員さんの山でお世話になりました。今年はタケノコが不作で少なかったのですが、タケノコ堀を午後に回した関係で参加できない隊員もあり、1 チームとなったために、何とか対処できましたが、来年はもう少し工夫をしておこうと考えました。まだ、十分に大きくなっていなかったのですが、子供たちや親御さんが掘るにはちょうど良い大きさで、時間はかかりましたが、熱心にタケノコ堀を楽しま

れたようです。

【食べられる野草】

ツクシ、セリ、ワラビ、アザミ、フキ、タンポポ、ヨモギ、ノビル、ハコベ、タラの芽、サルトリイバラ、シイタケ、タケノコ、スイバ、シロツメクサ、ギシギシ、

(敷地内で見当たらなかった七草)

スズシロ、ゴギョウ (ハハクグサ)、ホトケノザ (コオニタビラコ)、

【食べられない野草】

ホトケノザ、キツネノボタン、タガラシ、ウマノアシガタ、ヒメハギ、ヒメウズ、トウダイグサ、ムラサキケマン、

初回のイベントは何とか無事終了いたしました。朝一番より場内の片付け作業を行っていただいた会員の皆様、多人数のまかないにもかかわらず調理のお手伝いをしてくださった隊員のご家族、午後のタケノコ堀まで残っていただいた会員の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。



結隊式・会長挨拶



注意事項の説明



野草の採集



野草の説明



山野草の調理 (天ぷら)



タケノコの掘り取り

親子自然観察隊の感想

★金子実侑

野草の天ぷら、特にたらの芽がおいしかったです。さつまいもの天ぷらも嬉しかったです。中学生になってなかなか参加できないかもしれないけれど、なるべくたくさん参加したいと思っています。

★金子（母）

今回は天ぷら作りのお手伝いをさせて頂きました。野外での天ぷら作りは、中学生の娘も楽しかったようで、お手伝いができたことをとても喜んでいました。このような参加の仕方もいいものだな、と思いました。

★下川航平

のびるを掘りまくったのが楽しかったです。

★下川（父）

遠くまで行って偶然見つけた三つ葉をほめてもらえて嬉しかったです。

★下川（母）

今年は春の季節がゆっくり進んでいる様子が、野草でも感じられました。

★藤井 奏樹（フジイ ソウジュ）

つくしが採れて良かったです

★藤井 博美（フジイ ヒロミ）（母）

「親子が、お日様の届くなかで、思い思いに、自由に、自然の中でゆったりと過ごす時間が持てて、とてもうららかで心地良かったです。北村先生に、食べられる野草と食べられない野草を鑑定してもらったとき、皆それぞれに珍しいのを見つけて持ってきていらしたのを目の当たりにすることが出来、凄く心地よい感じがしました。そんな中、わが家なりの”落ち”も、感じる事が出来、それもまた、良く思いました。」

★有吉 遼

近くに生えている草でも食べられるものがたくさんあって驚きました。つくしは、初めて食べることができて嬉しかったです。

★有吉(母)

お天気にも恵まれ、身も心もおなかも満たされたとても楽しい活動でした。以上です。よろしくお願いします。

★溝邊（母）

お友達の紹介でこの度初めてビオトープに参加させていただきました。弟、妹を連れて行き活動ができるか不安でしたが、自然いっぱいの中で息子もイキイキと野草の採取や、ヤゴの脱皮、ハヤやオタマジャクシなどの観察など十分に楽しんで、親子共々大変楽しい1日となりました。野草も種類を知ってから、いざお散歩すると食べれる野草っていっぱいあるんですね、これ食べれるね～といつもの散歩がさらに楽しくなりました。子供たちに素晴らしい体験のできる機会を与えてくださっている皆様に感謝です。次回の観察隊も楽しみです。

★平野耀大

ビオトープで初めて野草を食べました。ビオトープに着いて、まず野草を探しをしました。最初に見つけたのはレンゲでした。池の横にぽつんと咲いていました。次はハコベ。でもそれはハコベではなく、がっかりでした。その後 川の近くでフキを取って、タラの芽も取りました。袋にたくさん集めた野草を食べてみると、いちばんおいしかったのが、タラの芽でした。なので、また 野草を取って食べてみたいと思いました。

★宮本(父)

子供も大人も興味が湧く内容で、普段できない体験をし、実り多い時間となりました。なかなか食すことのないものを食べたり、思っていた植物と違ったり、葉ではなく根っこを食べるものや、若くて小さいものの方が柔らかくて食べる事ができる…など、実際に目で見て手で触ったり、臭いや味をみて新しい発見がたくさんあり、子供なりに何かを感じ取ったようでした。自然に触れ、貴重な体験をさせていただき、親子共々楽しく、いい思い出になりました。ありがとうございました。

★辻岡(母)

最初の害虫など説明を受けたときは 親子共々すこし不安になりましたが、移動して里山ビオトープを見たら、とても素敵な環境で親子でとても楽しめました。野草の天ぷらもとても美味しく、お腹いっぱい頂きました。毎年参加されている方も多いというのも納得です。次回も楽しみにしております。どうもありがとうございました。

★阿部 (母)

川添いに続く桜色の並木に迎えられ 沢山の春の目覚めに出会える自然に包まれた久しぶりのビオトープの風景に 心が洗われた週末でした。次に訪問する時の自然の変化が楽しみです。

★阿部真愉

土曜日 久しぶりにビオトープに行きました。自然の中に入るのが久しぶりでした。山菜摘みでは、ワラビやゼンマイなどを見つけることは出来なかったけれど、タンポポやフキ、アザミなどが摘めて嬉しかったです。アザミの葉はチクチクしているので、軍手を二重にしたけれど それでも痛かったです。天ぷらは、自分が見つけられなかったものも食べれました。私は、ヨモギの天ぷらが一番好きでした。自然の中で摘んだものを 自然の中で食べるのはいいな…と改めて思いました。久しぶりに自然に入れたり、おいしい山菜が食べれてうれてうれしかったし、山菜摘みがとても楽しかったです。

★阿部凜子

とても久しぶりにビオトープの自然に再会し、懐かしく 昔 小学生だった頃のことを 思いだされました。今回は山菜を揚げ、配膳をし、それも又 貴重な体験が出来 楽しい いちにちでした。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(16) オジロアシナガゾウムシ *Mesalcidodes trifidus*

コウチュウ目 ゾウムシ科

ゾウムシの仲間は鼻がゾウのように長く突き出ている甲虫です。中には例外もありますが おおよそ鼻の長いのが特徴です。オジロアシナガゾウムシは象の鼻というより天狗の鼻のようですね。捕まえるとすぐ仮死状態になり動かなくなり、かみついたり刺したりはしない人間にとってはおとなしい昆虫のようです。

本州から九州にかけみられ、クズの葉や茎に集まりますので、大変探しやすいゾウムシです。成虫の出現期は4月～8月にかけて、見た目は黒と白のまだら模様で体長およそ1センチ、クズの葉を注意して探せばほとんど見つけれられると思います。但しツルを揺らせばすぐに落下して逃げられてしまいますので、捕虫網などで落下しても良いように構えておかねばなりません、それが採集するコツでしょう。ゾウムシの中でも探しやすいと思われますので、

ぜひ探してみてください。



クズの茎や葉に止まるオジロアシナガゾウムシ



ビオトープの中にも多く見られます

7. 会よりの連絡事項

1. 29年度総会も済み、会費未納の方は早期納入をお願いします

8. 編集後記

維持活動に参加されている主な人（20名弱）の平均年齢は70歳である。ビオトープの最初の形にしたのは、2001年1月～3月で、16年前でありこの方たちの年齢は54歳であり、元気に活動され、毎週土曜日朝から夕方までよく動かれていた。この時には多くの県や市の関係者も参加されていたが、今は誰も残っておられない。2011年に土地も借地から市有地が変わったが、この時の関係者は全員移動された。2000年9月の発足からの経緯が分かる会員も少なくなってきた。ビオトープを、なぜ、ここに、いつ、どのようにして、だれが、作ったのかを知る人が少なくなり、この豊かな（生物多様な）水環境を維持していくために次の世代にどのようにして継承していくかも課題になってきた。この思いを伝えるには、やはり若い多くの人々が参加してくれることを願うのみである。

（ 原谷 一誠 記 ）